



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2002. 5月号



新しいスタッフを迎えました

4月の人事異動により、博物館管理担当職員が大幅に入れ替わりました。

館長には、尾崎前館長の後任として学芸担当長の土井 浩がなり、また、管理担当には、重田政弘館長代理、安藤壽朗主管、越水成美主管、小宮玲子主事が新しいスタッフとして配置されました。土井宣子嘱託員とともに5名体制で管理部門のさまざまな業務を行ってまいります。

ところで、博物館の管理担当、学芸担当が執務する各部屋のドアは、大きく開け放たれています。理由は、博物館を利用する方であればどなたでも、気軽に何時でもお訪ね下さい^{いっしゅう}ことを願っているからです。もちろん、館長室も同様にお訪ねください。沢山のお話から、平塚市博物館を少しでもより良い博物館にしてまいりたいと考えております。よろしくお願ひ申しあげます。

平塚市博物館

館長 土井 浩

写真左より小宮主事、重田代理、土井館長、安藤主管、越水主管、土井嘱託員

寄贈品コーナー「人文部門新資料展」 5/2(木)~6/2(日)

博物館では、毎年春に新資料展を行い、この一年間に新たに寄贈された資料を展示しています。本紙ではこのうち民俗分野の展示資料を紹介します。

自転車 当館で初めて資料として自転車を受け入れました。寄贈者は、茅ヶ崎市下町屋在住の鈴木喜八郎さんで、昭和11年に秦野中学校へ入学したときのお祝いに、大磯で買ってもらったものです。鈴木さんはこの自転車に乗って、大磯の自宅から約13kmの道のりを毎日秦野中学まで通いました。当時は、だいぶ自転車も普及しており、大磯から通う同級生の半数以上が自転車で通学していたといいます。冬は霜とけで泥だらけになったり、雪の上で横転したり、また昔の金目川は増水するとしばしば土手が切れたので、水に浸かりながら走ったりと、通学途上の思い出がたくさん染み込んでいる自転車です。

戦前の主な自転車メーカーには、宮田、丸石、岡本、山口、日米富士などがあり、安い自転車は20円くらいからありました。鈴木さんの自転車は岡本のノーリツ号で、当時58円で購入しました。日米富士は憧れの的の高級車で、110円くらいしたそうです。オカモトの特徴はメッキが良く錆びにくかったことで、鈴木さんは昭和41年に二台目の自転車を購入してからも、手入れを重ねてノーリツ号に乗り続けてきました。サドルのスプリングが折れて寄贈されることになりましたが、補修すれば現在でも乗れる頑丈なつくりです。鈴木さんは、「1936→2001年 65年前」と記した木札と、赤いリボンを自転車につけて、博物館へ贈ってくださいました。

郷土玩具コレクション 夕陽ヶ丘の近野毅氏から寄贈された全国郷土玩具コレクションは整理がほぼ終わり、膨大なコレクションの全貌が明らかになりつつあります。総点数は1,183点で、分類すると土鈴が295点で最も多く、土人形も相当数あります。いずれも昭和30年代以降に収集された玩具であり、単品だとさほどの価値は無いのですが、まとまったコレクションになると資料価値が生じてきます。それぞれの玩具を通して、各地の風土や歴史を垣間見ることができます。人々はどんな物に願いを託してきたのかなどを探ることができます。

近野氏のコレクションは沖縄県を除く全国各都道府県から隈無く集められており、産地が特定できた資料を県別に見ると、最も点数が多いのは神奈川県の97点です。次いで福岡県の62点、東京都の53点、京都府の44点、奈良県の42点、宮崎県の36点と続いており、やや西高東低の感があるようです。福岡県が突出して多いのは、博多市の泥面子が30点ほど収集されているためです。郷土玩具は有名な寺社から縁起物として授けられるものが多く、歴史の古い町や観光地に優れた郷土玩具が存在しているといえます。

神奈川県は、全国的に見ると郷土玩具の乏しい県なのですが、地元ということで県別で最大の点数が収集されています。市町村別に見ると鎌倉市が49点で最も多く、大塔宮鎌倉宮の板獅子、杉本寺と宝戒寺の板守り、長谷寺の身代わり土鈴、鶴岡八幡宮の鳩土鈴など由緒ある玩具が少なくありません。また、一般に相模土鈴と称される土鈴を手がけていた相沢伊寛氏の店が鎌倉にあり、その作品が25点収集されています。鎌倉市に次ぐのは平塚市の33点ですが、これは鎮守三島神社などから購入した絵馬が占めていて、いわゆる郷土玩具はありません。展示では、郷土玩具と絵馬による神奈川の小さな旅をお楽しみいただきたいと思います。

その他の資料 氷の冷蔵庫（千石河岸 飯尾和敏氏）、念仏用具（花水台 新山章一郎氏）、洗濯板と盥（夕陽ヶ丘 大谷耕三氏）、イチッコ（南原 遠藤延雄氏）などを展示する予定です。



鈴木喜八郎氏とノーリツ号

相模川の生き立ちを探る会の紹介1

—七沢石の観察と方沸石の発見—

相模川の生き立ちを探る会では、毎月1回、相模川流域の各地で地形・地層・岩石を観察し、丹沢山地の成り立ちを、生活との関わりも考えながら理解しようと、毎回テーマを決めて歩いています。ここでは、昨年11月に「鐘ヶ岳と七沢石」をテーマに実施した第121回探る会の様子を紹介しましょう。

■鐘ヶ岳の七沢石

鐘ヶ岳東麓は、相模川流域の石材として江戸時代から石仏や石臼等に利用されている七沢石の石材产地として知られています。そこで、この時には鐘ヶ岳登山をしながら、七沢石の石切場（丁場という）を訪ね、七沢石とはどんな石材で、どんな地層から産出するのか、何故鐘ヶ岳東麓が七沢石の産地なのかなどを考えながら、観察することにしました。

鐘ヶ岳登山道入口にある七沢浅間神社の鳥居には、七沢石が使われていました。高さ5m以上もある鳥居の柱になる七沢石は、亀裂の多い丹沢の地層では考えられないことでした。ここで七沢石というのはどんな顔つきをしているのかをよく観察しました。ここから登山道を登っていくと、1丁目毎に七沢石の道標があり、年号や寄進した村名が刻まれており、信仰の範囲の広さが伺われました。24丁目の大平では七沢石の丁場が確認できました。切り出された矢(くさび)の跡のある七沢石が転がり、丁場の露頭で七沢石が粗い火山礫を含む凝灰岩であることを観察し、博物館用のサンプルを数人の会員が手分けしてザックに入れてくれました。丹沢が海底火山であった頃、噴出された火山灰や火山礫が海底に堆積したものであることを解説しました。毎度の事ながら、午前中はゆっくり観察するので、頂上で昼食になりません。この時も、この丁場でやむなく昼食となりました。

■方沸石の発見

昼食後は、鐘ヶ岳山頂を目指し、1時半過ぎに山頂へ着きました。山頂は展望がきかず、短時間の休憩をして、東の尾根を金翅に下るコースを取りました。しかし、このルートは下にゴルフ場が建設されてから登山道として廃棄されてしまい、消えかかった道をたどり、雑木林の間を縫うように進みました。途中、七沢石とは顔つきの異なる、握り拳大の角礫を多量に含んだ火山角礫岩の露頭を観察しました。ここで、飯田会員が角礫中にキラキラ光る鉱物を見つけました。そばにいた鉱物に詳しい加藤会員は、

ルーベで観察して方沸石という東丹沢では珍しい鉱物であることを話され、みんなで周囲をよく観察することになりました。帰りのバスの時間が心配でしたが、会員の熱心さのあまり、ここでまた時間をとってしまいました。結局、ここでは安山岩溶岩礫の気泡中に方沸石・輝沸石という鉱物が採取されました。

■会員による再調査

その後、この情報を聞いた鉱物の好きな渡辺会員は、大変残念がり、単独で今回発見した鉱物を確認しに出かけられました。それは、丹沢での方沸石の発見は、新発見になるのではと思ったからでした。方沸石は、ガーネットのような24面体の形をした沸石ですが、ワイラケ沸石という同じ形をした沸石があり、確認したいとのことでした。ルートを示した翌日に現地を訪ねられ、ワイラケ沸石ではなく、加藤会員の言うとおり方沸石でしたと報告されました。後日、渡辺会員は、鉱物科学研究所の掘秀道先生にこの沸石の分析を依頼され、Na成分をかなり含んでいて、化学成分的にも方沸石で間違いないとのご回答を得たと報告されました。その後の調べで、七沢で方沸石の産出が報告されていることがわかりましたが、この方沸石の発見を機に会員が一つの疑問を確かめようとされたことは大変うれしいことでした。

七沢石をテーマにした観察会でしたが、何か目的をもって歩くと、いろんな発見をすることができるということでしょう。探る会は年間会員制ですが、随時入会可能ですので、参加ご希望の方はご連絡下さい。

(森 慎一)



七沢浅間神社入口の七沢石の鳥居を観察する

博物館カレンダー

<平成14年5月>

<平成14年6月>

1 水	民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	特研室
2 木	☆ 寄贈品コーナー「人文部門新資料展」(～6月2日) 展示解説ボランティアの会	展示室
9 木		特研室
10 金	石仏を調べる会「石仏調査」	八幡
11 土	古文書講読会	講堂
12 日	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
	地質調査会「読書会」	特別研
13 日	水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
15 水	プラネタリウム「おひさまくしたの？」	プラネ室
	裏打ちの会	科学室
	民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	特研室
16 木	展示解説ボランティアの会	特研室
17 金	古文書講読会	講堂
18 土	◎星を見る会「月と西空の惑星たち」	屋上
	天体観察会「ひるまの金星」	屋上
19 日	◎ろばたばなし	展示室
	相模川の生い立ちを探る会「丹沢の珊瑚礁」	松田町
23 木	石仏を調べる会「カード整理」	特研室
24 金	古文書講読会	講堂
25 土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研室
	地質調査会「塔ヶ岳亞層群9」	野外
26 日	民俗探訪会「諏訪神社祭礼」	横須賀
19 日	古代遺跡を探す会	科学室

☆：展示（無料） プラネタリウム（観覧料）

○：申込制 ◎：自由参加 無印：会員制

1 土	天体観察会「太陽」	屋上
2 日	相模川の生い立ちを探る会「丹沢産の勾玉」	厚木市
4 火	★全館燃蒸(6月13日まで休館)	博物館
5 水	民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	下島
8 土	◎漂着物を拾う会	虹ヶ浜
	地質調査会「塔ヶ岳亞層群10」	野外
9 日	水辺の楽校生きもの調べの会	相模川
11 火	天体観察会「部分日食」	駐車場
13 木	石仏を調べる会「石仏調査」	四之宮
14 金	☆寄贈品コーナー「平塚空襲展」(～7月30日)	展示室
	古文書講読会	講堂
15 土	☆プラネタリウム「夏の大三角完全追跡」(～7月14日)	プラネ室
16 日	民俗探訪会「森戸神社汐神楽」	葉山町
	◎ろばたばなし	展示室
	地質調査会「読書会」	科学室
19 水	裏打ちの会	科学室
	民俗探訪会調査会「民間信仰調査」	大島
20 木	展示解説ボランティアの会	特研室
21 金	古文書講読会	講堂
22 土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特研室
23 日	古代遺跡を探す会	広川
27 木	石仏を調べる会「石仏調査」	四之宮
28 金	古文書講読会	講堂
29 土	○自然の新聞を作る会「梅雨の総合公園」	大原

展示とプラネタリウム

☆寄贈品コーナー「人文部門新資料展」
考古・歴史・民俗の新収蔵品を展示します。
会期：5月2日（木）～6月2日（日）

☆プラネタリウム「はてしない星空」
星たちはどのくらい遠くにあるものなのでしょう？
宇宙のスケールを考えてみます。
期間：4月13日（土）～6月2日
投影日：土日曜日の11時と14時

参加者募集

◎漂着物を拾う会

海岸に流れ着いた物から、来歴を推理したり、自然環境を考えたりします。

日 時：5月11日（土）9時30分～11時

場 所：平塚虹ヶ浜海岸

参 加：自由（ただし、初めての方は往復はがきで申し込むこと）

◎星を見る会「月と西空の惑星たち」

西空に集まった月齢6の月と水金火木土の五惑星を見ます。

日 時：5月18日（土）19時～20時30分

場 所：科学教室・屋上 参 加：自由

◎ろばたばなし

民家の囲炉裏端で昔話を聞いてみませんか。

日 時：5月19日（日）(1)13時30分～(2)15時～

場 所：展示室民家 参 加：自由



田村の回り地蔵

4月3日、民俗探訪分科会で田村の妙楽寺へ行き、回り地蔵を拝観してきました。この地蔵は昭和40年代まで田村の家々を一軒一軒回っていましたが、今は現役を退き、妙楽寺に安置されています。厨子正面の金網は、子供の無事成長を願って各家で奉納した三角布団がびっしりと掛けられ、外さないと地蔵の姿が見えないほどでした。往時の地蔵に寄せられた思いの深さが伝わってきました。

◇休館のお知らせ◇

館内の殺虫消毒にともない、6月4日（火）～13日（木）まで休館いたします。

あなたと博物館 27巻 2号 通算306号 発行 平塚市博物館 2500

〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949

E-Mail.musee@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/museum/>